

はばたき

2014. No. 78

大久保学園リニューアル



- 大規模修繕から思う P 2
- 生活にいろどりを P 4



大規模修繕から思う

大久保学園 施設長

千日 清

「重度・加齢者棟」、これは平成五年に入所定員五〇名の増床として、国庫補助を受け建ちあげられた、現在の南館を指しています。大久保学園は昭和四七年七月、定員五〇名で事業を開始しました。知的障害者入所更生施設として、当時から日中の活動を積極的に取り入れ、生活指導と作業活動に加えて法人独自に取り組んだ学習と体育指導を毎日継続して小グループ単位で進めてきました。

働くことの大切さと義務、このことは今もなお法人の基本理念の中に大きく位置づけられているところで、障害の有無に関わらず誰もが大人として働く、人を思いやる、感謝の意を忘れず、社会参加と就労に向けて利用者と職員が協調して取り組んできたこの歩みは、激動となる現在までの制度改革の中にあっても、私達には当たり前のこととうけとめることのできる歴史と実践という宝物となっています。

船橋市は現在六二万人の中核都市。当時から利用者の高齢化と障害特性の多様化という課題が全国規模で語られていましたが、船橋市も例

外ではなく、施設機能の強化を目指しながら、加えて地域との関係性を問い、生活拠点としてだけではない活動拠点としての施設整備が強く求められていました。今でこそ叫ばれている「社会資源としての機能と地域貢献」が利用者とその家族をはじめととして、多くの相談が寄せられていたことを記憶しています。

昭和を終える少し前から準備に入った「重度・加齢者棟」整備。完成すれば入所定員は一〇八名となり、県内でも極めて利用人数の多い施設となることに加え、全国に先駆けて知的障害者のデイサービスセンターの開設、地域交流スペースの設置、当時の名称緊急一時保護事業等々これらの整備に各地を視察や相談に奔走したことが思い出されます。いずれの事業も名称からでしか活動実態を想像することができず、着工間際になってもまだ変更修正を繰り返すという状況。開設当時から本館の目の前に、本格的に開始された建設工事は、一体どのようなようになっていくのだろうと、楽しみばかりとは決して言えない驚きの心持ちと「すごい」

と思う気持ちとが錯綜していたということが本音でありました。歴代の法人役職員が引き継ぎ、そして進めてきたこの計画。平成五年四月九日青空の下行われた竣工式典を法人全ての役職員が祝いと引き締めを心して執り行った時代でありました。

長期に渡っての施設整備は、近代的、個別的に対応することのできる設備を整え、今まで四人一部屋での生活環境が、この新しい建物だけは二人部屋或は一部個室としていよいよ利用を開始したわけでありました。利用者五〇名の増員は、当然新規職員的大量採用にもつながり、竣工式直後より、段階的とはいえ一日一五名の新規受け入れを約十日間で行うという、今ではとても考えられない、乱暴とも思える日程。利用者の顔と名前が一致せず、新人職員に対しても同様、どちらの対応にも困り果てた先輩職員達。依然四人部屋を余儀なくするしかない本館と新館の環境格差に、戸惑う保護者。そしてこの頃には全国的に施設は小舎制へと移り変わり、この大きさに賛否の議論を耳にする時でありました。

年月が過ぎれば、壊れたクローゼット、亀裂の入った壁、立てつけのずれた窓等々、平成十二年には定員を変えらることなく女性棟を整備し、四人居る本館の大規模修繕を施し、全ての利用者が個室或は二人部屋になった以降、「重度・加齢者棟」は

二〇年間での使用に消耗も激しくなり、建物も老朽化し、加えて東日本大震災のダメージ、そして利用者の高齢化、当時の利用者の生活実態とは大きく変化した今、利用者からのニーズに応えるべく大規模修繕の実施となったものです。

耐震化等大規模修繕を二十六年一月より十月までの間実施し、その間再び本館から「重度・加齢者棟」の大工事を目の当たりにしたものでして、前述した出来事が鮮明に思い起こされ、そこに暮らす利用者の中には、年を重ね動きの変わった実態と、その方たちを守る職員の姿が、時代の経過を静かに語りかけているように思えてなりません。願わくばリニューアルした設備が、ひとりひとりの暮らしに少しでも役に立つことができるのであれば、また次への思いを実現していく勇氣になるものと確信します。

新しいものへの挑戦と、振り返ることの大切さと、改善を重ねながらの生活創り。

最後に、今回の大規模修繕の実施については千葉県、また船橋市両障害福祉課をはじめ、関係者の皆様よりご理解とご支援を頂戴いたしましたことに厚く御礼申し上げます。この事業がより一層生活の向上につながるよう、法人役職員一丸となって進めてまいりますので、今後ともご指導を頂きますようお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。

今回の修繕工事を終えて、利用者が暮らしやすさを実感している場面を目の当たりにしたり、職員も完成した設備に楽しげに手を加える姿を目にします。単純に嬉しくもあり大切に使うという身の引き締まる思いです。工事期間は利用者の住まいや食事場所の変更。毎晩、誰かが外食に出かけたり、銭湯に向いたり新たな取り組みもありました。ここまで大規模な工事は、職員もそう経験出来ることではありません。仮住まいとは言え、利用者の生活が不便にならないように、むしろ楽しめるように。そして安全を第一に取り組み無事工事を終了したということが、ひとり一人の成長にも繋がったものと感じています。(椰原)



床質が柔らかくなっているのが、安心出来ます。とにかく綺麗になったのでこれから大切に使用していきたいと思えます。

部屋のクローゼットに鍵が付いたことが、良かったです。自分で鍵を持って管理が出来る人も喜んでいきます。

トイレのスペースが広がって車椅子対応が可能になりました。利用者も職員もゆとりを持つことが出来ます

外観はレンガスタイル、内装は全てが木目調で統一されていて、おしゃれな空間に変わりました。

食堂も一新されました。綺麗になったので次はテーブルとイスもとついで欲が出てしまいます。

生活にいろいろを

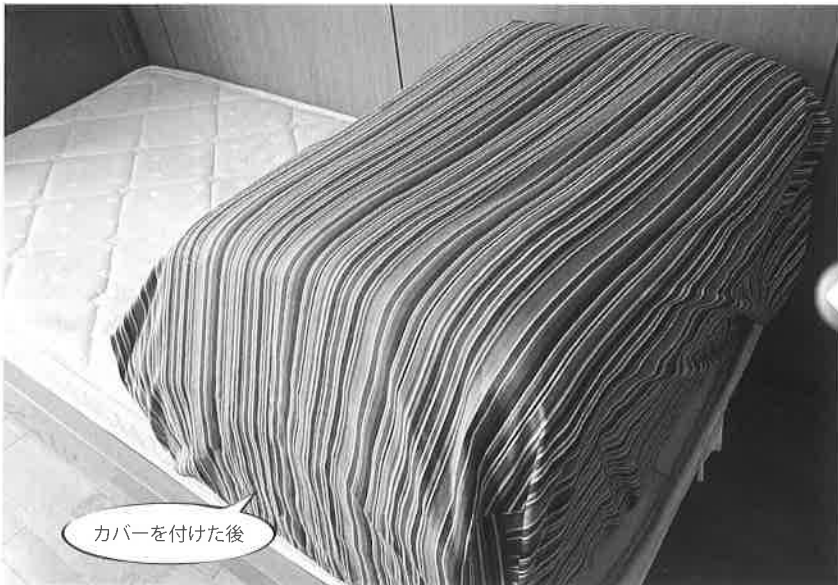
みんなの
布団カバー
を作ろう!



製作の様子



カバーを付ける前



カバーを付けた後



できあがり



田尻 彩

南館の改修を終えて、新たな南館での生活がスタートしています。今、徐々に綺麗な建物に新たな彩りを加えていけるように考案・作成中です。生活するにあたり、ガラッと寂しい空間は「施設」を表してしまうようで寂しい気がします。利用者の皆さんの住まいとなる場所を家庭的な雰囲気として感じて頂けるような暮らしやすい環境づくりに工夫をして取り組んでいきたいと思ひます。他の棟も建物は古くなって来てても私達が手を加える事で心地よい空間づくりが出来るはず。生活担当として益々、張り切っていきたいと思ひます。



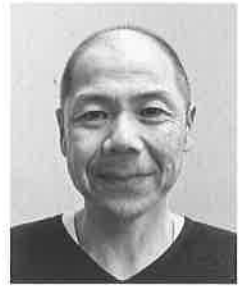
加藤 綾子

朝、利用者を各作業班に送り出す。「さあ！部屋の掃除をしよう！」と、掃除機を持って部屋のドアを開ける。新しくピカピカになった床の上にベッドがひとつ。その上に畳まれた布団がありシンプルな部屋。現在、利用者が暮らしている部屋でわたしが生活をするとしたらと考えてみました。私だったら「好きなキャラクターのぬいぐるみをベッドにおきたいなあ〜」、まずはベッドの上に置かれている布団に注目しました。「布団カバーをその人の好きな色や物にしてみるのはどうだろう。」一人一人の個性が出て、生活感を感じさせる事が、その人の人間味としての魅力が出るのだと思ひます。



秋永 真由子

生活感が出せるようにと職員が手作りで布団カバーを作りました。生活感とはなんだろう、自分だったらどんな居室がいいだろう、と考えた時に居心地の良さを重視したいと思ひました。綺麗になった部屋や新しい物が増えた部屋だと嬉しい気持ちになるのは誰でも同じだと思ひます。修繕で居室は綺麗になったのでそこに何か新しい物を取り入れたいと思ひました。そこで、これまで無かった布団のカバーにいきました！手作りならその部屋に合った色や柄が選ぶことが出来るという利点を生かして、職員が手掛けさせて頂きます。利用者の方も付け易いように工夫し、居室に新しい色や柄を取り入れることで明るい雰囲気が生まれました。これからも生活感のある雰囲気作りを心掛け、職員一同頑張っていけます。



「ありのまま」の次のこと 国際福祉機器展を視察して

大久保学園 施設長補佐
吉野員史

園に届いた宣伝チラシを施設長の机の上に置くと、鉛筆で「興味ありません」の走り書き付きで戻って来ました。学園の利用者も例に違わず歳を重ねて来ています。そんな折、東京ビックサイトで開催された「国際福祉機器展」はまさにタイムリーな情報収集の場でありました。

有明の会場には560社が所狭しとブースを構え自社製品をアピールしています。誰もが知っている上場企業、福祉に特化した老舗メーカー、職人色の強い地方の素材メーカー、こんなにも福祉業界にビジネスチャンスがあるものか。一見、この業界とは無関係の社名があの手この手で福祉に絡もうとしていました。自動車メーカーは、ほぼ全社が車いす対応やリフトカーを展示。建設業は、住宅からバリアフリーの補助具まで。当然、食品メーカーは、柔らかいレトルト製品や栄養食。電機業は、見守り探知機なるもの。釣り具メーカーのカーボン杖には驚愕。少し会

社規模が小さくなるとトイレの汚れ防止や食器の補助具に活路を見出し、飛驒の木工所が腰に優しい椅子を展示する隣で姫路の工房が革製の車椅子を試運転。先日の日経新聞に「記事があり、それも納得の賑わいでした。」

さて、邪念を捨て仕事モードに切り替えますが、どっぷり福祉人は、こうった展示の時に利用者を思い浮かべ、ユニットを想像し、そこを起点に物事を見るものです。今更ながら「福祉」と言うくくりの中でいかに「知的障害」のパーセンテージが低いことを思い知らされます。そう言えば、会場にはレーシングカー張りの電動車いすが右往左往して「道を空けて下さい」とハッキリと意思表示をされている。右も左も社員が寝たきりの人を想定したモデルとなつて実演がなされています。高齢者の在宅生活を支える機器や介護者をアシストする補助具も眼につき

ました。身体機能のハンデや衰えを補うことが福祉の総称になつてはいないか。いやいや勘違いです。これは「国際福祉機器展」です。「ありのまま」の次のことをテーマとして、現状の「あつたら良いかも」と「これはどうですか」をどうマッチングさせるか両者のしぎ合いの場なのです。

学園では、様々な人達が集団での生活を送っています。個々人の身体機能の衰えに眼を向けた時、痴呆と呼ぶにはまだ時間がある場合、「眠る」に関しては、医療、環境、マンパワーが功を奏することも多く、当の本人も不眠に陥ることが少ないように思えます。大きな課題は、食べる・入浴する・排泄する・移動する。ここに困難が生じた時、思いだけでは越えられない現実と直面することになるのです。今回の南館大規模修繕は勿論、園内も随所に段差の解消やトイレの形状を変える整備を行っています。この類の環境設定は簡単に飛び越えて「次のこと」が必要になる人もいます。

施設では、日常的にケースバイケースという言葉を使います。構造化等の支援は別として広義に捉えれば、私はあつてしかるべき共通語だと思つています。日々、変化する本

人の実態像やご家族の背景だけでも全てが個別のケースです。これに経済、権利擁護、年齢、制度の要素が加わるのだから、本当にケースバイケースに対応する力が施設全体に求められています。「福祉機器」によって「次のこと」が助けられ、現在の生活を継続出来るならと考えるはありますが、それだけではあまりに短絡的です。本人にとって安心出きで安全に暮らせる環境はどこにあつてどう作り上げていくのか。長きに渡った生活環境、構築された人間関係を現実問題としてどう尊重していくのか。

混雑の会場を歩きながらこんなことを考えていました。一方で楽観的に捉える感覚もあります。オムツかぶれを防ぐクリームとコーヒーズリー味の薬に包むオプラーの試作品を二回並んでもらつたりしながら、すぐにでも使つてみたい物や見守りセンサーのように将来をイメージするものをワクワク感でイメージしています。どちらにしても、係長と二人で出かけた視察ですので「一」では終われません。一生懸命に「ありのまま」の次のことについて皆で相談していきたいと思つています。

それぞれの施設だより

大久保学園

春には大所帯の賑やかなバス旅行を実施しましたが、秋組は少し趣向を変えて小グループで出掛けて来ました。東京ドームで野球観戦の後はシテイホテルでの宿泊。翌日は東京タワーを楽しんで都会を満喫して来たグループ。ドイツニerlandで夜のパレードまで堪能し、次の日の昼までホテルで過ごしてのんびりと帰ってきたグループ。先週は、富士急ハイランド。一昨日は、袋田の滝グループとそれぞれの楽しかったと声がかれました。

バス旅行には、利用者と保護者、それに職員がお手伝いをして大宴会が繰り広げられる賑やかで楽しい雰囲気があります。昨年度から実施している小グループの旅行では、職員が利用者の希望を聞き取って行程を作っていく、フットワークを生かした物が出来上がります。次年度も楽しめる企画を利用者と共に練っていきたいと思います。(神谷)



ふなばし工房



ふなばし工房は9月7、8日、28、29日の二回に分かれて群馬県伊香保温泉へ出掛けました。朝ドキドキわくわくしながらバスへ乗り込み、群馬

サファリパークへ出発しました。サファリパークではバスの中からライオンやキリンを見、外へ出てモルモットと触れ合いました。

旅館については、大きなお風呂でゆったりし、日頃の疲れを癒しました。宴会は毎年恒例、カラオケ大会！皆さん緊張しながらも楽しんで唄っており、普段の作業では見られない素敵な歌声を披露してくれました。

二日目のおもちゃ博物館では懐かしいおもちゃやディスプレイを観たり、射的で遊んだりしました。昼食の名物水沢うどんもとっても美味しかったですですね。

皆さん、二日間の旅行は思う存分楽しめたでしょうか？楽しみがあるから作業も頑張れる！皆さん、これからも頑張ってくださいませよ。(佐藤)

光風みどり園

連日降り続いた雨をもものもせず、奇跡的に晴れ間の覗く中行われた8月31日。納涼祭は多くの方達と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

プログラムのメインは、皆さんによるカラオケ大会と職員による余興です。カラオケでは、みなさんの素晴らしい歌声を会場に響かせてくれました。余興は、園芸班の原口支援員によるバンドCHESS(チェス)に出演して頂きました。演奏が始まるステージの前に人が集まり、まるでライブ会場になったかの様に盛り上がりました。美味しいご飯を食べ、歌い踊り、皆さんが見せてくれた素敵な笑顔はとても眩しかったです。

納涼祭が終わって、9月末から利用者1泊旅行が始まりました。今年度の宿泊先は潮風香る勝浦へ。千葉の魅力満載で職員と共に楽しい思い出を作ってきました。



みどり園



居住棟が新しくなり1年が経とうとしています。利用者も新しい居住棟での生活に慣れたようです。今年6月からは日中活動が始まりました。日中活動棟に移動し作業に向かう利用者さんの姿はとても活き活きとしているように感じます。

みどり園には以前からミュージックケアという活動があります。中心となるリーダーの動きをマネし音楽に合わせて体を動かす活動です。利用者さんはこのミュージックケアが大好きでとても楽しみにしています。以前は居住棟ごとに曜日を決めて午後の余暇時間に行っていました。9月からの日中活動の時間に機能訓練班としてミュージックケアを行うことになりました。曲ごとに動きが違うのですが昔からミュージックケアを行っていた利用者さんは動きや曲を覚えていて「次は鳴子の曲をやるよ」などと声を掛けてくれます。そして、ボランティアの方も参加してくださり、地域の方との交流の場にもなっています。(小熊)

地域生活支援センター

平成26年1月から始まった南館大規模修繕工事に伴い、短期入所・日中一時支援事業の利用期間や回数等について調整やご相談をさせて頂き、皆様に多大なご協力を賜り、事故なく無事に工事を終える事が出来ました。心より御礼申し上げます。

入所者が生活しながらの工事だった為、長きに渡りご不便をお掛け致しました。今後は工事前と変わらず、短期入所併設型20名、単独型20名、日中一時支援10名で事業を展開して参ります。

最後に、11月現在、12月以降の申し込みをたくさん頂戴して頂きます。多くの皆様にご利用して頂く為、引き続き調整やご相談をさせて頂きたく思います。

新しくなった設備の中、今後共、よろしく願い申し上げます。(山田)



相談支援事業

相談支援事業所では来年3月31日まですべての利用者さんにサービ



心して利用して頂けるよう頑張っている最中です。当法人のサービスとして、他法人の事業所を利用されている方々からもお問い合わせが頻繁にあり、誠意を持って対応させて頂いているところです。

毎日のように聞き取りやアセスメントをさせて頂く中で、いつも感謝を受けることは、何といてもご本人を支えているご家族の努力と愛情の深さです。自分のことは二の次で、ご本人の幸せや将来のことを考え努力されている。そんなご家族や、愛情深く育てられニコニコ笑い、自分なりに一所懸命生きている利用者さんに出会う度に清々しい思いになります。このような気持ちになれることに感謝しながら今後も頑張っていく所存です。どうぞよろしくお願

い申し上げます。(小澤)

グループホーム



グループホームでは休日に出出を計画したり、生活の中でも季節を感じられるように環境を整えています。休日には映画を見に行ったり、天気が良い日には皆で歩いて

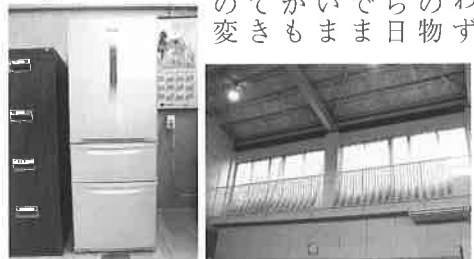
アンデルセン公園に行ったりします。公園では四季折々に変化する風景の中を散策し、お昼ご飯を食べ、のんびりと過ごします。

夏にはホームのメンバーで花火をしました。各々花火を手に持ち、打ち上げ花火を見ては歓声が上がります。皆が笑顔になり楽しんでいる様子は家族のようでもあり、仲の良い友人のようでもあります。楽しい思い出の一つとなりました。公園やホーム、映画館、それぞれの場所で皆のいろいろな顔を見る事が出来ます。季節は変わり、ますます寒くなりますが、健康に気を配りつつ、うつりゆく季節を楽しみながら過ごせる様に工夫していきたいと思っています。一つでも多くの笑顔と思いを残せるように。(石井)

通所

この通所所班の生活環境は、より快適さを増しています。まず、2階の窓にサンシェード(日よけシェード)を取り付けました。これにより夏の日差しもほぼ遮ることが可能になり、日の当たる箇所も大幅に減らすことが出来ました。次に、各窓に網戸を取り付けました。これまで室内はエアコン頼みのところが強かったのですが、自然の風を取り入れることで気持ちのいい爽やかな空気が入り、換気にも繋がっています。最後に、石川さんの保護者より冷蔵庫を寄贈して頂きました。冷たい飲み物をいつでも提供できるようになり、また、不調者用のアイスノン等も常備出来るようになりました。大切に使用させて頂きたいと思っております。ありがとうございます。

快適になった生活環境を当たり前のことと思わずに、一つ一つの物に感謝しながら日中活動に励んでまいりたいと思えます。冬の訪れがもう間近に迫ってきました。季節の変わり目ということもあり、健康第一に頑張っていきたいと思っております。(内山)



憶 記 る 辿

実習がきっかけ

みどり園 澤田 和希



と、とても安易な気持ちでの入学でした。

保育実習や幼稚園実習では苦戦の連続でした。そして大学3年生の時に大久保学園で実習をすることになりました。保育士・幼稚園教諭の資格を取得するためになぜ福祉施設の実習もしなければいけないのか、というような疑問を抱きながら実習初日を迎えたことを覚えています。知的に障害を持つ方と関わったことの無かった私は不安と少しの抵抗を持ってしまっていました。しかし、実習が始まると利用者さんの方から元気な挨拶や暖かい歓迎を受け、すぐに抵抗は無くなりました。そして、とても明るくイキイキとそれぞれの生活を送る利用者さんの事や、福祉についてもっと知りたいと思うようになり、実習が徐々に楽しくなっていました。初めに抱いていた抵抗や恐れを悔やみ申し訳なく感じました。また実習中は現在の先輩に当たる職員の方たちに入所施設がどのような場所でのどのような人がどんな生活を過ごしているかをととても親切に教えて頂きました。

大学4年となり他の実習も経験しましたが、やはり大久保学園での実習が一番楽しく、印象に残り自分の仕事として取り組むことになりました。

今でも利用者さんと職員の方たちに支えられ日々の支援に努めています。この感謝の気持ちを努力に変えて今後も精進していけたらと思っています。私は支援員を目指して就いたというよりは偶然やきっかけに恵まれて就いたのですが、今後このようなきっかけも生み出していけるような支援員になれるように頑張っていきたいと思っています。

私は大学で保育士・幼稚園教諭を目指す学部在籍していましたが、特に保育士などになりました。特に関わりが深くなり、子どもが好きで人と携わる仕事に就きたいという思いでした。今考える

小さい頃からの経験

船橋市光風みどり園 佐藤 里奈



私には子どものお世話をするのが好きで小さい頃は自分の弟妹や近所の子ともたちとよく一緒に遊んだり、小学生の頃は友達と特殊学級の子も交えて遊んだりしていました。中学校にあがった頃から周囲では障害を持った子に対して「こわい」とか「近寄りたくない」等と否定的な言葉を投げかける人が増え、私のクラスにもそう思う人がいました。私は「何でそんな風に思うのだろう」と当時はとても不快に思いました。何故ならば私の弟も知的障害をもっているからです。

物心がついた頃から弟の通う幼児デイサービスと一緒に遊びに行き、弟だけではなく他の障害児と関わる機会がありました。当時から健常児の子と同じ様に何も変わらずなく普通に接していたので「偏見」という感情は私の中では無く、周囲の反応にただ疑問を持つばかりでした。

福祉関係の専門学校に入学し児童福祉を専攻しました。初めは「子どもが好き」という理由から保育士、幼稚園教諭を目指していましたが在学中の3年間保育園、幼稚園実習や施設実習を重ねていくうちに次第に「子どもも好きだけど、障害をもった人と関わりたい」という思いが日に日に強くなっていき、最終学年の3年生の時に就職希望先を保育園から施設に変更しました。卒業までの限られた時間の中で障害者ミュージカルの出演者サポーターとして参加をしたり、卒業論文では障害者と健常者の関わりをテーマに論文を作成する等充実した学生生活を送りました。

そして何かの縁か弟の通う大久保学園を受験し、現在早くも4年目を迎えました。正直かもしれないかもしれませんが「身内がいる安心感と家庭では見られない施設での様子を見てみたかった」というのも当時の志望動機に含まれていました。様々な障害をもった方々と触れ合い、共に時間を過ごしていくこの時間は今の私の中でとても充実したかけがえのない時間となっています。小さい頃からの様々な関わりが今の仕事に就職するきっかけとなり、そして充実した毎日を送っている事が本当に幸せなのだと感じています。

平成25年度 社会福祉法人 大久保学園 決算報告

(単位:千円)

財産目録

平成26年3月31日現在

資産・負債の内容			
I 資産の部		II 負債の部	
流動資産	2,305,464	流動負債	1,329,064
固定資産	4,654,356	固定負債	1,904,927
基本財産	1,957,033	負債合計	3,233,991
建物	1,212,510		
土地	744,523		
その他の固定資産	2,697,323		
資産合計	6,959,820	差引純財産	3,725,829

貸借対照表

平成26年3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	2,305,464	流動負債	1,329,064
固定資産(基本財産)	1,957,033	固定負債	1,904,927
固定資産(その他の固定資産)	2,697,323	負債の部合計	3,233,991
		純資産の部	
		基本金	537,557
		国庫補助金等特別積立金	942,120
		その他の積立金	585,500
		次期繰越活動収支差額	1,660,652
		純資産の部合計	3,725,829
資産の部合計	6,959,820	負債及び純資産の部合計	6,959,820

資金収支計算書・事業活動収支計算書

自平成25年4月1日～至平成26年3月31日

資金収支計算書		事業活動収支計算書	
勘定科目		勘定科目	
就労支援事業収入	95,908	就労支援事業収入	97,655
就労支援事業支出	96,186	就労支援事業支出	102,231
就労支援事業収支差額	▲ 278	就労支援事業活動収支差額	▲ 4,576
経常活動収入	1,784,926	事業活動収入	1,475,842
経常活動支出	1,517,683	事業活動支出	1,238,120
経常活動収支差額	267,243	事業活動収支差額	237,722
施設整備等収入	206,051	事業活動外収入	353,381
施設整備等支出	1,317,280	事業活動外支出	353,083
施設整備等収支差額	▲ 1,111,229	事業活動外収支差額	298
財務活動収入	1,253,556	特別収入	206,051
財務活動支出	178,999	特別支出	205,588
財務活動収支差額	1,074,557	特別収支差額	463
当期資金収支差額	230,293	当期活動収支差額	233,907
前期末支払資金残高	745,162	前期末繰越活動収支差額	1,466,045
当期末支払資金残高	975,455	当期末繰越活動収支差額	1,699,952
		その他の積立金取崩額	129,000
		その他の積立金積立額	168,300
		次期繰越活動収支差額	1,660,652

寄付金

平成二十六年四月四日
平成二十六年九月二十四日

〔後援会〕

内田幸子・小松茂利・飯塚 廣・宮澤迪夫
高橋 實・渡邊 晃・大河原敏男
初山敏雄・矢下春男・林 宣男・野尻武生
七海勝則・堀内靖夫・布施義高・布施充蔵
大谷京司・中川聖治・矢作 榮・吉内厚子
吉内美保・矢口勇雄・針谷喜美恵
中村靖雄・蛸島英二・糸川 昇・野田 尚
植草米子・石川 清・永沼哲郎・相内勝正
萩原 誓・小林英三・白倉さよ・井上英子
清水宏晏・武正理恵・中村美智子
洪谷京子・加藤房治・大堀勝朗
其田鉄三郎・御給和弘・根本二夫
鈴木キヨ子・板橋いと子・佐瀬善浩
永沼貴子・井上正記・中島久志・(株)伊賀谷
トールン観光(株)・平 敏行・篠崎春夫
山崎孝子・平塚芳昭・菅谷くに江
石塚 渡・桐山 昇・來栖 修
(株)エイシンオート・石塚 宏・岸 勝弘
矢作 豊・折田梅男・林 静子・高安裕子
板振 勇・梅津正信・廣瀬平二郎
笹山晴夫・長田全弘・関口多比子
染谷寛治・加増錦太郎
(株)サクraisスポーツ・矢島弘文・西井建二
本 忠信・奥村 博・柴垣謙介・伊都一利
松本和子・藤井松雄・宮崎正光・仙石信夫
萩原幸男・川尻儀一・日下部敏和
平山 実・齋藤 武・北村一義・鈴木葉子
石井冬子・長谷部健二・高橋靖昭
栢野芳子・協栄農産(株)・飯塚三郎
岡野悦子・柴田茂昭・岩間家具産業
渡邊弘子・工藤文一・平岡勝彦・新里玲子
岩田久子・依知川一成・依知川節子
田辺誠司・山路康一郎・渡辺久美子

鈴木壽子・太田黒泰子・唐鎌良枝
末延久子・柳原憲治・岩崎信雄・谷口貞雄
平野義久・中村恵美子・鈴木勝子
金子澄子・末広自動車(株)・大川勝幸
豊田美紀・小淵佳枝・逆井 保・浅井栄三
坪内宣昭・奥田寛美・鈴木成子
大場富美子・岩崎与一・戸倉陽子
平山吉己・川上久雄・清田久子・近藤裕昭
中村迪子・津浦邦次・青木常子・岡田敬司
中島たき・西原庸介・吉田房夫・飯塚 昇
川瀬育子・千葉理子・木原勝美・長野健一
吉田幸男・加藤金太郎・福谷長久
友菊隆志・飯塚浩之・本澤正行・村林説子
坂元哲雄・佐藤政子・多賀多恵子
安田早苗・平井好江・鶴沢正己・橋本憲一
長尾義軌・長島隆男・上條茂樹・渡邊昭夫
大木まさ江・原田キク子・杉本浩司
齊藤尚夫・北総保険企画(株) 宮本 忠
室井真子・太田康明・米澤頼子・長浦健二
山崎つたい・平野義直・渡邊昭夫

〔一 般〕

大久保学園後援会・霊友会

光風みどり園 納涼祭お祝い金品

大新東(株)・習志野製袋・河野美智江
ウインマックス・わかたけ社会センター
(株)丸鈴・平川園・橋本栄子・篠 義一
齊木信造

ありがとうございます

行事予定

4施設全体行事	
12/9	さわやか芸能発表会
1月	駅伝大会
2月	手をつなぐ作品展
3月	佐倉マラソン
大久保学園	
12/6	保護者会 忘年会
12/28~1/4	冬休み
ふなばし工房	
12月	忘年会
12/28~1/4	冬休み
2/21	保護者会
光風みどり園	
12月	忘年会
12/28~1/4	冬休み
1月	保護者会(新年会)
2月	ビーバー号歯科検診
3月	保護者会
みどり園	
12月	クリスマス会
12/28~1/4	冬休み

納車されました



7月23日 (水)に待望の新車がみどり園に納車されました。日産セレナ(7人乗り)です。両側オートスライドドア、セカンドスライドアップシート(電動回転・昇降)付きで、車いすや杖を使用する方に配慮された仕様になっています。

寄贈していただいたみどり園保護者会の皆様、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

編集の窓

広報誌「はばたき」も年を重ねるごとにレイアウトやそれぞれのコーナー等、以前と大分、形も変わって来ました。しかし、職員の熱い想いや利用者さんの想いを伝えていくことには今も昔も変わりありません。これからも広報誌「はばたき」から皆様へ、多くの想いを伝えていきたいと思っております。(和久)

はばたき 二〇一四 七八号

発行/平成二十六年十一月
発行所/社会福祉法人 大久保学園
TEL 〇四七(四五七)二四六二
FAX 〇四七(四五七)四〇六九
URL http://www.okubogakuen.or.jp
Mail shienka@okubogakuen.or.jp
編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園長 中原 強